

県市合築図書館の 現状・課題・展望

オーテピア高知図書館

専門企画員 山重壮一

「合築」は「売り」でも「押し」でもない

県立と市町村立の合築・共同運営はおすすめしません。

高知の場合は、合築しなければ、新たな整備は行わず、耐震のための改修にとどまった可能性も高い。

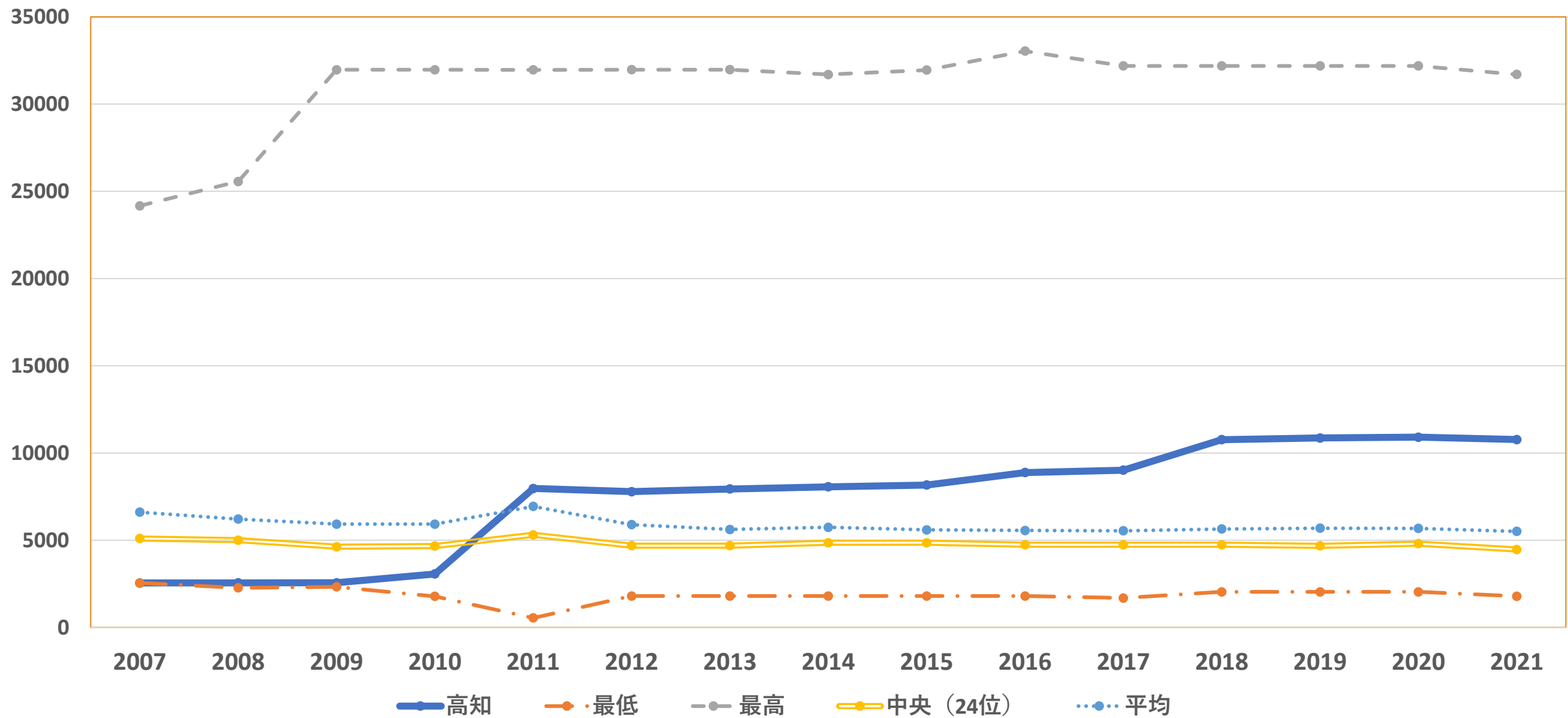
→ 県立図書館の場合、**全国最低の面積**(4千平米未満)・**資料費**(2007年度2,500万)だったため、(図書館としては)**施設面積も資料費も増やしサービス水準を上げたかった。**

… 一方で、**高知の図書館サービス水準が低い**という認識が県庁にはなく、むしろ人口減少に対応して施設のリストラを図りたい意向もあった。

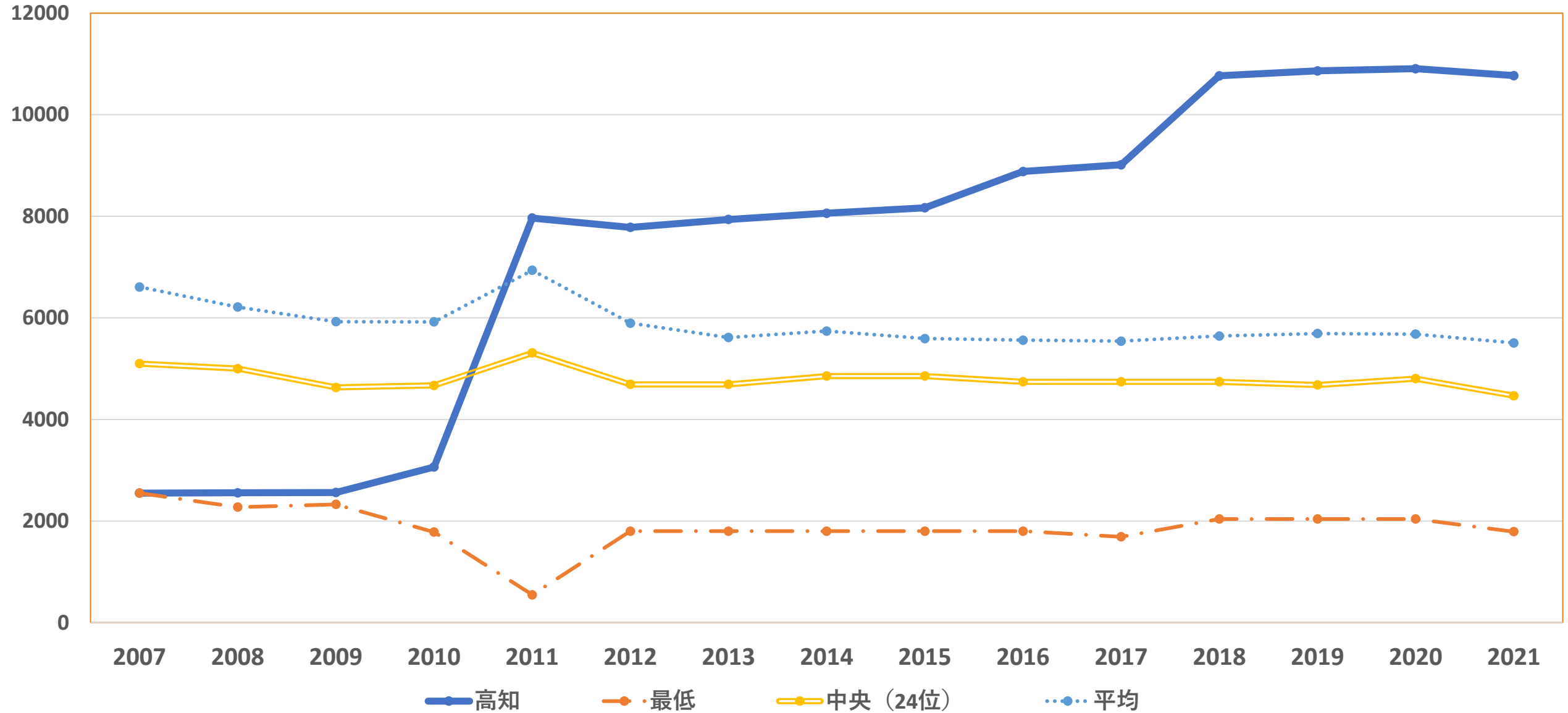
… この矛盾があったため、新構想検討委委員会では活発な論議があり、**単なるリストラではない、課題解決支援なども含んでサービスを上げる**ことを前提に合築となった。

情報システム・物流の統合、共同選書、司書の人事交流、共同研修は考える価値あり。

都道府県立図書館資料費（万円）



都道府県立図書館資料費（万円）



現状1 予算の配分

資料費は県・市それぞれ・・・情報システムは統一、分類・MARCデータも統一。情報システムが共通なので、不要な複本は購入しない。

その他の県・市の固有業務・・・当然、それぞれ
共有業務

(1) 原則・・・折半(負担金になるものも)

(2) 蔵書冊数が影響するもの・・・県:市=10:7

現状2 職員（事務スペースも共用）

館長はそれぞれ。その他の職員はすべて県市併任のため、指揮命令系統の混乱はない。

会計年度任用職員・臨時職員はそれぞれで雇用（併任できないため）。

・・・窓口の非正規は市が雇用。県立旧非常勤司書は窓口は出なくなり、資料整理に。

利用者と直接接しない書庫出納・返却ポスト処理（館内ポスト室含む）・返本業務・書架整理・予約資料のピックアップ・配送仕分け等をナカバヤシに委託。

レファレンス・デスクは原則、正規職員の司書。※高知資料デスクは司書ではないが歴史の専門家も。

貸出しカウンターにも正規司書は必ず入るが会計年度任用職員も活用。

視聴覚資料カウンターのみナカバヤシに委託。簡易な問合せには応じるがレファレンスは正規司書にまわす。

貸出しは基本、セルフ・サービス（予約資料も、視聴覚資料は除く）。返却も館内ポストに。

課題1 意思決定の複雑さ

文書多すぎ

- ・県と市で確認するため、文書そのものが多すぎる。
- ・県職員と市職員がほぼダブルでハンコを押すため、非常にまわるところが多くなり、意思決定に時間がかかる。

グループウェアを入れてはみたが

- ・窓口勤務、シフト勤務、市町村支援や出前図書館等の出張が多いこと、分館・分室があり、多数の委託業者が関わり、同じ複合施設内の組織との連絡も必要なため、グループウェアを導入した。
- ・しかし、情報量が多すぎて、管理的職員になればなるほど、読み切れない。
- ・会議・打ち合わせ自体も非常に多い(県市会は毎週)。

課題2 サステナビリティ(継続性)

資料費

- ・県の財政課は資料費を減らしたい(資料費1億円に納得していない)。
- ・県の財政課は保存するスペースがないのなら、そんなに購入しなければよいと考えている。
- ・県の財政課は市町村の資料の補完についても、基本的には市町村が自ら予算措置すべきと考えている。

人員

- ・図書館の定数削減の話は今のところはないが、将来の保障はない。
- ・半分くらいが会計年度任用職員等で、こちらは状況によっては削減される可能性もある。

保存スペース

- ・図書館としては、将来的に必要なことを新図書館整備課・生涯学習課を通じて伝えてあるが、認識が共有されているとは言いにくい状況がある。

展望1 厳しい展望

厳しい理由

理由1 資料費について財政課が納得していない

理由2 県や市の職員自体の利用が低迷・・・インターネットでの情報収集や国などからの情報提供で対応できるという認識の職員が少なくない

理由3 利用者の圧倒的ニーズは**娯楽志向**・・・実際に、非常に娯楽が少ない

展望2 目指したい姿

- ・課題解決を支援する図書館
 - 1 娯楽メインの不要不急の施設ではない役に立つ図書館
 - 2 課題山積県である高知県を課題解決先進県にしたい
 - 3 課題解決のためのディスカッションに資料・情報資源を活用することを定着させたい

オーテピア高知図書館のコンセプト／ 目指す像（基本構想・基本計画）

- (1) 県民・市民の資料要求に応え、課題解決の支援ができる図書館
- (2) 情報提供機関として地域を支える図書館
- (3) セーフティネットの役割を果たす図書館
- (4) 進化型図書館
- (5) 図書館利用に障害のある利用者に配慮した図書館

司書の専門性を活用するサービス

- 1 貸出しは基本的にセルフ・サービス。返却も館内返却ポストで行う。
- 2 司書は正規職員で採用し、レファレンス・デスクで仕事する。
- 3 アウトリーチ専任司書を置いている(アウトリーチ専任は、十分に仕事ができるように窓口には原則つけていない)。
- 4 企画部門に司書を置いている。
- 5 課題解決支援のために、ブックリストやパスファインダーの作成、図書館活用講座等の開催、出前図書館を行う。

レファレンス・サービスの重視

レファレンスをメインとする窓口(3か所)

2階 調べもの案内デスク

3階 ビジネス支援デスク

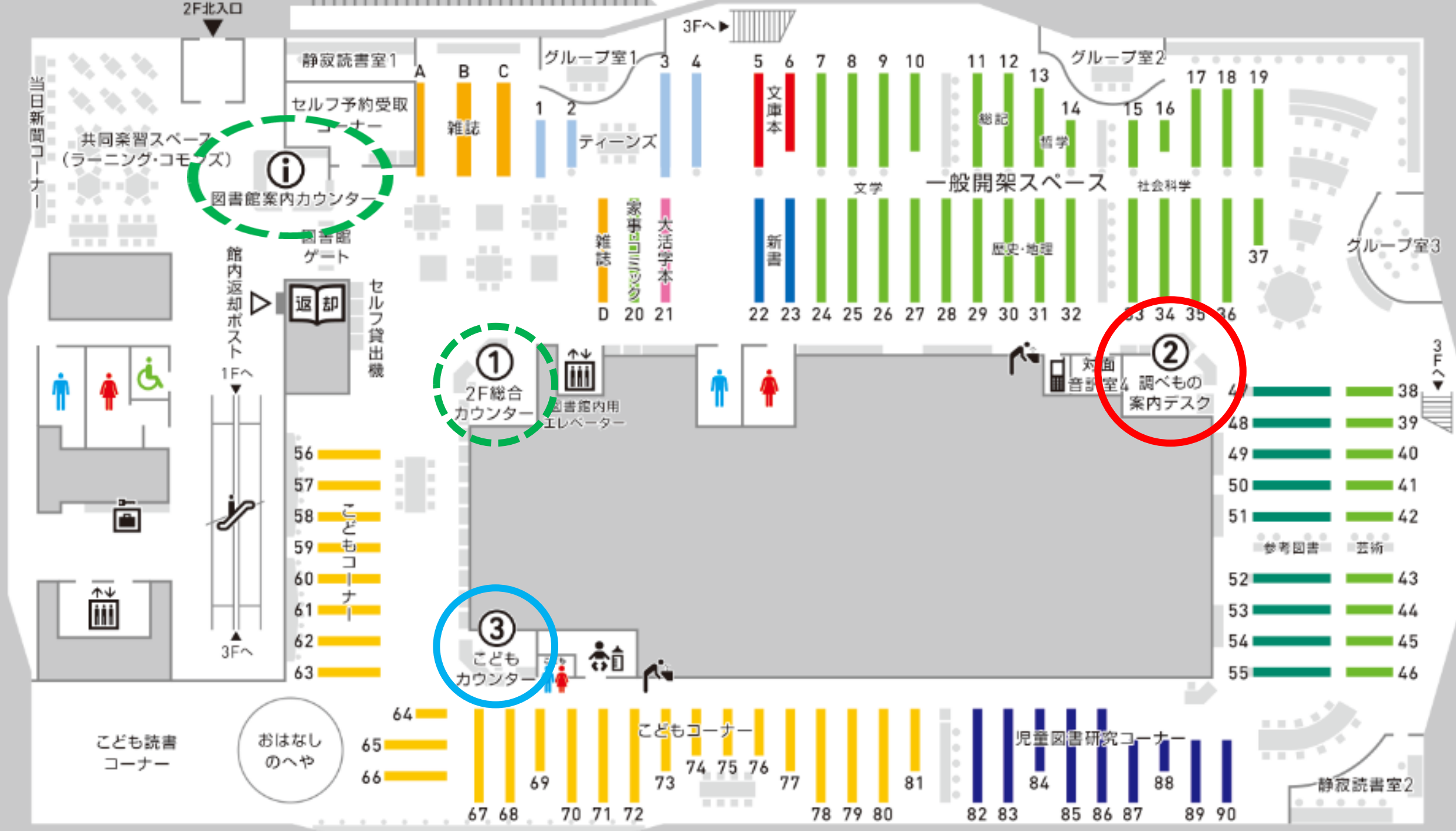
3階 高知資料デスク

レファレンス・デスクも兼ねている窓口(2か所)

2階 こどもカウンター(午後5時まで)

3階 総合カウンター＋健康・安心・防災情報デスク



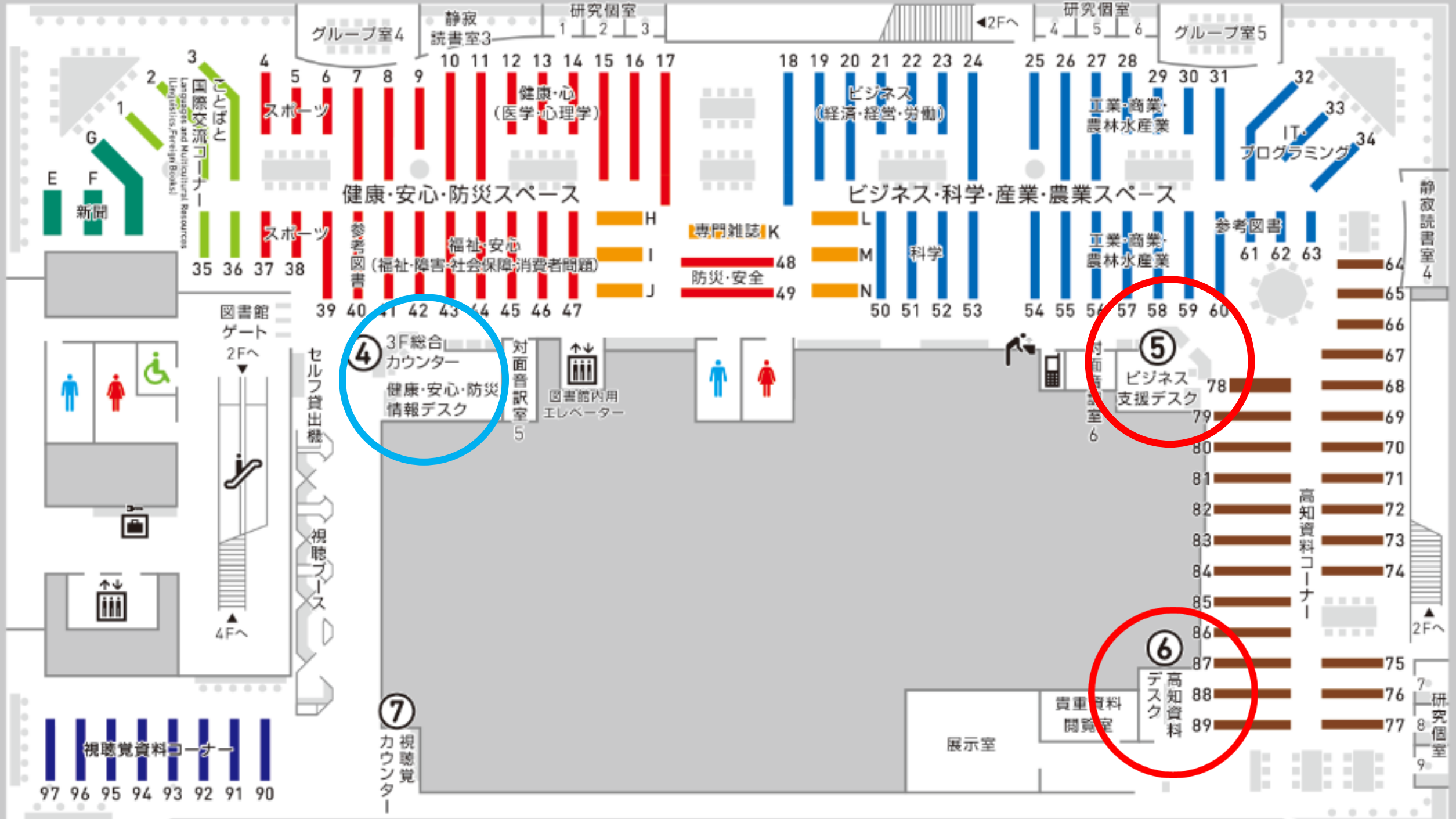


図書館案内カウンター

①
2F総合
カウンター

②
調べもの
案内デスク

③
こども
カウンター



レファレンス・サービスの課題

高知資料(地域資料)関係のレファレンスは多いが、他は相対的に少ない

電話でのレファレンスが多いが、対応が十分ではない

司書が大卒新規採用で近年採用した人たちばかりなので、**経験値がまだ足りない**

(仕事の経験というより、**読書そのものの量**がまだ足りない)

データベースを多数導入しているため、**論文を読みたい人がいるが、提供に手間がかかる**

調べる時に、本や雑誌などの**資料を調べる**ということを思いつかない人がまだ多い

目指す像を実現するための戦略

- 1 実際に**仕事・事業を行っている人**にアプローチする。
- 2 実際に**行政の実務を担っている職員**にアプローチする。
- 3 広報を絶やさず、同じ事でも**繰り返し広報**する。
- 4 **議員**にしっかり理解してもらう。

以上のことにより図書館の応援団をつくり、利用者の要望により、質・量ともに充実を図る。

戦略を実現するための主要な戦術

- 1 ホール、研修室、集会室などで催事がある時に、**出前図書館**を行い、利用をアピールし、新規の登録者を獲得する。
- 2 行政職員については、**メールマガジン**を発行している。
- 3 一般の広報は、図書館が発行する各種広報紙の他、ウェブサイト、ブログ、SNS、**動画配信サイト**を活用する。
- 4 **他の専門的な広報媒体**に図書館を載せてもらう。
- 5 **マスコミへの投げ込み**はまめに行う。

図書館が充実すれば地方に移住してリモートワークできる(都会の会社を辞めなくてよい)

高知家の魅力・地域紹介

移住者インタビュー 高知市・佐久間さん

<https://www.youtube.com/watch?v=QkWK298X7Cw>

(5分22秒)

第十回【今後の高知との関わり方:移住だけではないリモート】佐久間 寿弥子様(東京都→高知市 2020年から1ターン)インタビュー動画

(上と同内容)

<https://www.youtube.com/watch?v=6bkF-LCKgpM>

県立図書館としての働き（機能）

市町村立図書館支援機能

- ・協力貸出し・資料相互貸借の媒介
- ・セット貸出し
- ・現地支援・・・東部・中部・西部ブロックごとに担当を置き定期的に巡回訪問

県立学校等支援

- ・セット貸出し
- ・現地支援・・・県立学校支援担当を置き、訪問

市町村の規模では提供できないサービス

- ・データベース・・・20種類以上
- ・専門的な資料のコレクション・・・2000タイトル以上の雑誌、160タイトル以上の新聞、資料費1億円
- ・レファレンス・サービス

県立図書館と市町村立図書館・図書室との関係

利用者から要求があって提供する協力貸出しは**新刊書でも貸出す**。

- ・高知市の資料については、本館分(オーテピア高知図書館分)のみ新刊分を協力貸出しに出す。
- ・高知市の分館・分室の新刊は、1年経過してから、他の市町村に提供する。
- ・分館・分室にしかない場合、**積極的に県で購入**。
- ・県で、**市町村支援分の専用資料を拡充**した。
- ・県では**セットも組んで、まるごと市町村に貸している**。
- ・ブロックごとに支援担当司書を置いて、図書館専用の公用車で巡回訪問している。
- ・**協力貸出しは、宅配便に委託で開館日毎日発送**。
- ・県、市とも移動図書館も運行しているが、こちらも委託(県は公民館等団体に貸出し)。

高知県立・市立図書館の対図書館貸出し

年度	県	市	計	備考
2007	15,563	1,270	16,833	
2008	15,471	1,403	16,874	
2009	7,898	936	8,834	
2010	11,842	863	12,705	
2011	9,948	870	10,818	
2012	10,203	1,083	11,286	
2013	4,729	1,194	5,923	
2014	27,177	1,331	28,508	
2015	26,680	24,083	50,763	情報システム統合
2016	30,612	0	30,612	市民図書館仮設
2017	42,581	0	42,581	
2018			22,443	オーテピア7月開館
2019			32,954	
2020			33,128	

県市の情報
システム統
合の効果

ご静聴ありがとうございました
